

職員表彰 表彰事績一覧 (R5.12.13)

(1) 優秀職員等表彰 (3組)

業務健闘部門「安心・安全賞」

受賞者	事績概要
<p>都市整備部 西大阪治水事務所 (2名)</p>	<p>船舶による水上警戒に従事後、木津川堤防から河川に転落した人を発見し、自らの危険を顧みず人命救助を行った。</p> <p>三軒家水門の試運転後の帰所時に、木津川堤防上から河川に転落し、溺れている男性を発見した。</p> <p>地面から跳ね返るほど激しい雨が降り続ける視界不良の中、救命浮き輪を投げたが掴んでもらえなかったが、次に棒を差し出して掴ませた。男性を引き上げる際に船が大きく揺れ、職員が船外に落ちる危険もあったが、無事に男性を引き上げることに成功した。</p> <p>水を吐き出した男性の意識が続くように必死に呼びかけ続け、その後到着した大阪市救急隊員へ男性を引き継いだ。</p>
<p>生活安全部 少年課 巡查部長 富松 淳一</p>	<p>児童の性的搾取等事犯を早期に特定・検挙し、被害児童を保護するだけでなく、SNSの危険性に係る広報・啓発活動を行い、社会全体で児童等を保護する機運を高める一躍を担った。</p> <p>匿名の投書をきっかけに、被害児童が一人も判明していない状況から捜査を開始し、当該SNSに書き込まれた情報をくまなく精査をする等、膨大な作業を進め、事件を検挙した。</p> <p>被害者対策の初期段階はもちろん被害者対策終了後も保護者等と緊密に連携を図り、複数の都道府県にわたる被害児童を保護した。</p> <p>一般社団法人へ非行啓発・被害防止対策の検討を依頼したほか、学校関係者・携帯電話事業者等に広報・啓発活動をすることにより、児童、保護者等にもSNSの危険性を周知させ、社会全体で児童等を保護する機運を高める一躍を担った。</p>
<p>泉佐野警察署 警部 足立 康夫</p>	<p>浪速区の通称「オタロードエリア」に所在するテナントビル内で営業していた多数の違法DVD販売店舗を一斉摘発するとともに、これら店舗と賃貸契約を交わしていたテナントビルオーナーを逮捕し、地域の環境浄化に貢献。</p> <p>令和4年6月からテナントビルに入居する違法DVD販売店の一斉摘発を継続的に行い、ビルオーナーを含む多数の被疑者を検挙し、過去最大規模となる違法DVD約80万枚等を押収した結果、当該テナントビルから全ての違法店舗を排除し、親子連れや若年層の客が安心して訪れることができる環境を醸成した。(事績は、生活安全部に所属していたときのもの)</p>

(2) 活躍職員等表彰 (5組)

受賞者	事績概要
<p style="text-align: center;">総務部 『働き方改革 アンバサダーチーム』 (19名)</p>	<p>若手職員から見た改善すべき府庁の働き方という点について、現場の具体的な課題やその解決例を盛り込んだ提言を作成し、働き方改革の推進に貢献。</p> <p>16部局の入庁2～3年目を中心とする若手職員が、職員一人ひとりが働き方改革を「自分のこと」として受け止め、やりがいを持って働ける充実した組織を創っていくための提言「ほんまに変えよや！働き方見直しチャレンジ」をとりまとめ、令和5年3月に発信した。</p> <p>とりまとめにあたっては、移動時間や会議調整の手間が少ないオンライン会議や効率的にメンバーで情報共有ができるコミュニケーションツールを活用するなど、自らも働き方改革の取り組みを実践しながら提言内容のブラッシュアップに取り組んだ。</p>
<p style="text-align: center;">スマートシティ戦略部 『コロナスワットチーム』 (18名)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に関するシステム構築や環境整備等、各部局のコロナ関連業務のデジタル化を支援することにより、事務の効率化及び府民の負担軽減に貢献。</p> <p>令和2年4月、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、各部局の業務負担が増える中、デジタル化を支援するためのチームを設置した。</p> <p>参考となる国や他府県のシステムが少ない中で、職員が自らシステムを構築し、短期間で複数のシステムを構築するだけでなく、構築コストも削減した（システム等の構築件数：117件）。</p> <p>その他、テレワーク環境の整備やオンライン会議システムの導入等、職員の業務環境のデジタル化を行うことにより、各部局のコロナ関連業務の効率化及び府民の負担軽減に貢献した。</p>
<p style="text-align: center;">健康医療部 『茨木保健所 充電ステーション 推進チーム』 (6名)</p>	<p>保健所管内の在宅難病児者が、災害による停電発生時においても医療機器の電源を確保できるように、企業や団体と提携し充電場所を確保する「充電ステーション事業」を実現。</p> <p>地震や台風等の自然災害時の在宅難病児者への支援が課題であり、停電時に人工呼吸器等の医療機器の電源確保をするために、外部バッテリー等の充電場所として企業や団体の協力が必要であった。</p> <p>事業者・団体へ粘り強く説明をし、7事業者、理容組合等2団体（約100カ所）、公的機関1機関が協力に応じ、登録された在宅難病児者1人あたり5カ所程度の充電ステーションの候補地を設定し、地域で安心して療養できる環境を提供した。</p> <p>基礎自治体と一事業者が提携している事例はあるが、保健所管内全市町域内の事業者等と提携し充電場所を確保する取り組みは、全国初である。</p>

受賞者	事績概要
<p style="text-align: center;">都市整備部 『下水道室・ 南部流域下水道事務所 下水汚泥緊急受入れチーム』 (13名)</p>	<p>大阪市平野下水処理場で爆発事故が発生したことから、大阪市から大阪府へ下水汚泥の受入れ要請があり、短期間での受入れ調整を行い、府民100万人分の汚泥の安定処理を実現。</p> <p>令和4年12月3日に平野下水処理場で爆発事故が発生し、汚泥処理機能が停止する状況に陥り、大阪市は協定に基づき、令和4年12月28日付で大阪府へ下水汚泥処理を要請した。(協定締結後初の取組み)</p> <p>令和5年1月4日より府市や関係機関、地元調整を開始し、受入れ期間や受入れ量、受入れ体制の確立、費用負担方法など、協議開始から2週間で受入を開始した。</p> <p>現場の臨機応変な対応もあり、合計3,210トンの汚泥を受入れ、約2か月間にわたり府民約100万人の生活に影響を与えることなく、下水の安定処理を実現した。</p>
<p style="text-align: center;">都市整備部 『特殊車両通行許可 DX推進チーム』 (6名)</p>	<p>特殊車両通行許可業務において、申請手続きを電子化するとともに庁内で初めて内部の文書決裁システムとRPAの連動を導入し、府民負担の軽減及び事務の効率化を実現。</p> <p>オンライン申請システムの導入により、申請時の来庁が不要となり、いつでも、どこでも申請を行うことが可能となった。</p> <p>また、手続きの電子化により職員の窓口対応の負担が軽減されるとともに、RPAの導入により起案から公印申請にかかる事務処理負担が軽減された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年10月にオンライン申請システムを導入して以降、2,628件中531件が電子申請。 ・令和4年11月に文書決裁システムと連携し、4,000作業を自動化し、合計110時間分の作業を削減。(令和4年度末時点)

(3) 功績表彰(1組)

受賞者	事績概要
<p style="text-align: center;">福祉部 砂川厚生福祉センター 主査 松本 一己</p>	<p>自動車同士の接触事故現場に遭遇し、傷病者の応急救護や事故車両の移動、救急隊到着後の誘導及び傷病者の引継ぎ等、人命救助に貢献。</p> <p>令和4年9月2日、泉佐野市内交差点で右折するために停車していた軽自動車に対向車線を直進する自動車が衝突する場に遭遇し、居合わせた男性1名と交差点内に取り残された軽自動車へ向かい、車のエンジンを切る等、二次被害防止を施すとともに、運転席にいた女性を救出し、応急手当を行った。</p> <p>また、警察等が現場に来るまで、交通誘導を実施するとともに近隣の店舗の協力を得て軽自動車を歩道まで移動させ、更なる二次被害防止措置を実施し、府民の安全確保に貢献した。</p>